

## ふうど通信・2005年4月号

発行：NPOふうど（特定非営利活動法人 小川町風土活用センター）  
〒355-0316 埼玉県比企郡小川町大字角山 208-2  
Tel/Fax 0493-74-2624 <http://www.foodo.org> Email [ogawa@foodo.org](mailto:ogawa@foodo.org)

1部 100円

### 第6回埼玉県環境賞県民大賞を戴きました



### (内容)

2004年度の活動をふりかえって	P-1	
生ごみ資源化事業		
「生ごみバイオガス資源化をめぐる最近の動き」	P-4	桑原 衛
「地域通貨‘FOODO’への夢」	P-5	高橋 優子
自然エネルギー学校		
「東松山自然エネルギー学校の報告」	P-6	阿部 紀人
「2005年度小川町自然エネルギー学校募集中！」	P-8	事務局
ふうど仲間のページ		
「未来を見つめ、コツコツいい汗を」	P-10	金子 登美
「畑からエネルギーについて考える」	P-10	金塚 竜
「ケンタの思い」	P-11	岸岡 健太
「自分流 太陽光発電のすすめ」	P-12	桜井 薫
事務局より	P-13	事務局

## 2004年度の活動をふりかえって

昨年度の‘ふうど’は、主として<生ごみ資源化事業>、とりわけ新プラント建設準備とそれを支えるソフトの仕組みづくりに重点的に取り組みました。その進行状況と今後の展開については、このあとの生ごみ資源化事業についての報告をご覧ください。

一方、‘ふうど’の活動のもう一つの柱である<自然エネルギー学校>は、一年間のお休みを頂いての充電期間となりました。その代わりというわけでもありませんが、お隣の東松山市の地球温暖化防止・普及啓発事業の一環として、‘東松山 自然エネルギー学校’の企画・運営を受託しました。座学中心の3回の講座ではありましたが、これまでの‘ふうど’の活動のエッセンスが詰まったダイジェスト版・自然エネルギー学校という趣で、参加者の皆さんからも高い評価をいただきました。

また、‘ふうど’の活動を紹介させていただく目的で毎月の第2土曜日に開催している<オープンデー>も、相変わらず盛況です。多い時には参加希望者が50名を越え、また行政関連や遠方からの視察要請も増えているため、必要な場合には事務局で別途対応する体制を整えました。

全体的には、昨年5月の上田知事との対談や、‘さいたま環境賞県民大賞’の受賞(2005年2月)に端的に現われているように、地元である埼玉県内での活動の浸透と広がりが実感される一年でした。同時に、全国各地の自治体や研究機関(大学や農業試験場など)、環境NGOとの連携も強まりつつあり、ハードとソフトの両面で、さまざまな共同研究や企画が動き始めています。そうした活動の広がりを反映して、‘ふうど’に加入して、新たな活動を展開するメンバーも増えています。

これらの活動以外にも、メンバーが独立した企画として実施し、それを‘ふうど’が間接的にサポートするかたちで実施された企画もたくさんあります。その例をあげると、

## 「春の炭焼体験会」

・炭人の安部さんと生活工房「つばさ・游」の高橋さんの共同企画で毎年春に実施。

## 「不耕起の畑体験コース」

・生活工房「つばさ・游」の高橋さんが、立寄庵の金塚さんの協力を得て、4月から1月の一年間20回にわたって企画実施

## 「比企あおぞら教室」

・霜里農場の金子さんが、比企青年会議所からの依頼を受けて、比企地域(小川町を含む10市町村)に住む小学生親子を対象に、6月・8月(2泊3日)・10月の3回シリーズで実施

## 「サステナブルな地域づくりワークショップ in 小川町」

・ほほえみ農園の阿部さんが、環境NGO‘FoE Japan(地球の友)’からの依頼を受け、霜里農場、タミーズファーム、エルガ(太陽光発電)の協力を得て、7月・10月・12月の3回シリーズで実施

## 「PARC 農業体験ワークショップ」

・ぶくぶく農園の桑原さんが、アジア太平洋センター(PARC)の依頼を受けて、11月に実施

みなさんもそれぞれの経験や専門のバックグラウンドを活かして、‘ふうど’を舞台に新たな活動の芽を伸ばしてみませんか？

(2004年度の主たる活動)

月	種別	イベント・講演会・視察会などの名称	主催団体など
4月	企画	ふうどオープンデー	主催:ふうど / 参加者:6名
5月	企画 その他 対談 その他	ふうどオープンデー ドゥコープ助成式 上田知事(埼玉県)との対談 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新聞・テレビ放映</span> 第2回総会	主催:ふうど / 参加者:14名 主催:ドゥコープ / 場所:さいたま市 相手:埼玉県 / 場所:さいたま市 主催:NPOふうど / リリック
6月	取材	埼玉新聞に見開き2面にて知事との対談が掲載	相手:埼玉新聞
7月	企画 その他	ふうどオープンデー APバンク融資決定	主催:ふうど / 参加者:78名 主催:APバンク
8月	企画 企画 講演 視察 視察 その他	ふうどオープンデー 生ごみ資源化事業野菜交換会 第8回AVOさいたまフォーラム 川越南公民館環境講座 韓国ナショナルトラスト団体からの視察(14名) 埼玉農業総合研究所との液肥施肥実験開始	主催:ふうど / 参加者:6名 主催:ふうど・小川町 / 東小川・みどりが丘団地 主催:生涯教育まちづくり / 場所:北本市 相手:川越南公民館 相手:韓国ナショナルトラスト 相手:埼玉農業総合研究所
9月	企画 講演 講演 展示 視察 取材	ふうどオープンデー 第7回リサイクル商店街サミット 自然エネルギー利用総合セミナー 第5回・東松山環境フェア 関東農政局「食育実践検討会」からの視察(20名) 「婦人之友」9月号p.141~145	主催:ふうど / 参加者:34名 主催:リサイクル商店街連合会 / 山形市 主催:足利工業大学 / 場所:群馬県 主催:東松山市 / 場所:東松山市 相手:関東農政局 主催:婦人之友社
10月	取材 講演 視察 展示 展示 展示	テレビ東京「おしえて!アグリ」 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">テレビ放映</span> 恵泉女学園の講演会 長野県山ノ内町からの視察(7名) ドゥコープ10周年記念イベント 第5回東松山環境フェスタ みどりが丘祭り(小川町) 比企ふれあいフェスタ in 下里分校(小川町)	相手:農林水産省 & テレビ東京 主催:恵泉女学院 / 場所:東京 相手:山之内町役場 主催:ドゥコープ / 場所:大宮 主催:東松山市 / 東松山 主催:みどりが丘自治会 主催:比企青年会議所 & 霜里農場
11月	企画 講演 講演 企画	ふうどオープンデー 坂戸菜の花エコプロジェクト講演会 長野県中信地区ごみ減らし討論会 生ごみ資源化事業野菜交換会	主催:ふうど / 参加者:42名 主催:菜の花プロジェクト坂戸 / 場所:坂戸市 主催:長野県 / 場所:長野県松本市 主催:ふうど・小川町 / 伝統工芸会館
12月	企画 企画 企画	ふうどオープンデー 東松山自然エネルギー学校第1回(バイオマス) つくば市からのこども自然エネルギー体験(61名)	主催:ふうど / 参加者:19名 主催:東松山市 & ふうど 相手:つくば市教育委員会
1月	企画 企画 講演	ふうどオープンデー 東松山自然エネルギー学校・第2回(地域通貨) 埼玉県NPO入門講座	主催:ふうど / 参加者:3名 主催:東松山市 & ふうど 主催:埼玉県 / 場所:さいたま市

	講/展 視察 その他	食育実践事例報告・情報交流会“食の月間” 入間市有機100倍運動協議会からの視察 液肥米の販売	主催:関東農政局/場所:さいたま市 相手:入間市の農業関係者グループ 主催:ふうど
2 月	企 画 講/展 企 画 企 画	ふうどオープンデー 第4回・環境まちづくりフォーラム埼玉 東松山自然エネルギー学校第3回(太陽光発電) 地域通貨講演会(講師・泉留維先生)	主催:ふうど/参加者:31名 主催:同・委員会/場所:東松山市 主催:東松山市&ふうど 主催:ふうど/場所:小川町
3 月	企 画 講 演 講/展 視 察 視 察 受 賞 取材	ふうどオープンデー 環境ネットワーク埼玉設立記念シンポジウム 日本地域通貨フォーラム 明治学院大学から視察(5名) 立命館大学(京都)などから視察(2名) 「埼玉環境賞 県民大賞」を受賞 雑誌「GRAPHICATION」	主催:ふうど/参加者:23名 主催:同・委員会/場所:さいたま市 主催:さわやか福祉財団/場所:東京 相手:明治学院大学 相手:立命館大学、豊中市民団体 相手:埼玉県 相手:富士ゼロックス

### < マスコミなどに紹介されたもの >

- 2004年4月4日・・・日本TV「新ニッポン探検隊」
- 2004年4月・・・関東農政局広報誌「いぶき」2004年春号
- 2004年4月・・・掛川市A広報誌「あぐり」2004年4月号
- 2004年4月・・・進学教室SAPIX発行「めざせ!ごみのない地球」
- 2004年5月30日・・・TV埼玉「きらり 埼玉県 桑原さん、知事と会談模様が放送される
- 2004年6月3日・・・埼玉新聞にて上記放送内容が全面(見開き2面)に掲載される
- 2004年6月・・・生協pal・system「kinari きなり」表紙
- 2004年6月25日・・・EPO & GEIC発行冊子「やってみよう!環境ボランティア」
- 2004年7月・・・環境省地球環境局「どうなる どうする!?地球温暖化」
- 2004年7月30日・・・毎日新聞に生ごみ資源化事業紹介記事
- 2004年9月15日・・・みどりが丘広報誌「みどりが丘だより」
- 2004年9月・・・関東農政局広報誌「いぶき」2004年秋号
- 2004年9月・・・婦人之友社「婦人之友」9月号
- 2004年10月・・・「ふくしさいたま」10月号 地域通貨「FOODO」が取り上げられる
- 2004年10月・・・コスモ石油広報誌「TERRE」(テール)No.3
- 2004年10月3日・・・TV東京「おしえて!アグリ」放映
- 2004年11月1日・・・小川町広報「おがわ」11月1日号
- 2004年12月・・・A SEED JAPAN発行情報誌「種まき」12月号 Vol.89
- 2005年1月・・・埼玉県発行「埼玉NPOつながリスト」
- 2005年3月・・・NPO BIN発行「バイオマス白書2005」

**生ごみバイオガス資源化をめぐる最近の動き（代表理事 桑原 衛）**

ふうど通信1号の発刊から1年余が経ち、その間の種々の進捗と言いますか、紆余曲折を簡単に報告します。

2001年から始まった生ごみ資源化は、参加世帯を増やしながらか順調に試験を続け、その間に、ロータリーポンプの設置や微粉碎機（どれも企業に頼み込んだり、借用したもの）を生かした高効率プラントに進化してきました。農家自身による農家の為のプラントとして、経済性の上からも、「大手の大規模集中型プラント」とは比較にならない優位性があきらかになったものと思います。（最近、大手も原価を割るような低価格での設置を、某造船会社などでしているようです。それ自体は悪いことではないようにも見えますが、中小の地域プラントの芽をつむための先行投資の面が大いにあり、注意すべきことでしょう。）

さて、地場産プラントの建設です。2004年度中の建設着工、6月頃の運転開始を予定していましたが、建設場所の決定が大きな障害となっていました。昨年暮れに町から提示された町有地は、総合運動場内の高台にあり、立地上からも土地使用上からも適地と思えたのですが、周辺住民の協力が得られませんでした。周辺に知人がいなかったこと、実体のある農家がいなかったことが大きかったと思います。事前に住民に理解を求める努力をするのを怠ったのが、そもそもの原因でした。私たちの活動は、時折ですが広報で大々的に書かれていましたし、マスコミなどでも取り上げられることが多いので、後は町に任せておけば大丈夫だろうと、一抹の不安を持ちつつも、たかをくくっていたのです。町有地でもあり、広大な敷地内の施設です。無理をすれば作れないわけではないと思いますが、たとえ一人であっても反対者がいるようでは、今後に禍根を残すので、きっぱりその場所はあきらめました。1月30日のことです。

それからが大変。振り出しに戻っての土地探しでした。たくさんの人達の好意で、いくつかの候補地が得られました。今回は、前回の苦労を考え、農家が多い所、液肥などが活用できる所、周辺に協力者がいる所を選び、すでに周辺の住民の方々にも彼らと懇意な農家を通して諒解を得ています。今後は予定地が農地なので、地目の変更手続きがあり、順調にいても10月に正式な建築許可、11月着工となる見込みです。

地場産プラントは見た目も美しく機能的で、しかも最大限地元の資源と人力を使って作るものです。農家と農業が食べ物を作るだけでなく、地域産業を連携させ、人と人とを連携させ、農の恵みを地域で分かち合うための場を提供する産業に発展してゆくことが必要です。そんな大いなる望みを持ったこの事業が、日本のバイオマス利用の新局面を開くものとなればと願っています。

さて、この「生ごみバイオガス資源化事業」に、どなたかチャーミングな名称をつけてくれないでしょうか。呼び名は、とても大切です。良い名には、良い人と良い智恵が集まります。皆様のご協力をお願い致します。

2005.4.17

**地域通貨‘FOODO’への夢（高橋 優子）**

今、NPOふうどのやっている生ごみ資源化事業では、参加世帯に地域通貨 3 千円/世帯を配っている。この原資は、生ごみ償却費(32 円/k) > 生ごみ資源化費(12 円/k)の差益からきている。日本では今、400 余りの地域通貨が発行されているが、原資をもつ地域通貨というのは例がないのではないだろうか。参加者から会費をとっている所が多いし、お金に代えることができないものがほとんどである。

生ごみと言えば、やっかい物の部類に入る。それがお金になるのだから、すごい。さらにこの事業の益を地域通貨にするというアイデアはもっとすごいと思う。

生ごみから液肥とメタンガスを取り出すバイオガス技術は、つまり、食糧とエネルギーの自給を目指すことが可能だ。昨年は米で液肥の実証実験を、今年はいちご。液肥から野菜ばかりでなく、米、その米から酒、小麦からパン。地場産の物がどんどん増えていく。液肥オリジナルブランドも夢でない。さらに、参加世帯が増えれば、地域通貨‘FOODO’で交換できる物を、地場産の物品、次にはサービスにまで広がっていくのも遠いことではないだろう。これこそ、地産地消の真髄ではなからうか。

さらに、住民が自分達で資金を出し合って地元でプラントを作り、地元の有志が起業して自分達で出した生ごみを自分達で処理する。出来た液肥は農家で使って貰い、できた野菜や米を購入する。余った差益は、地域の環境や福祉に使うこともできる。私たちの将来は、今のところ、年金が貰えるかどうか判らない。また、世界は混沌としていて、いつ石油や食糧が不足するかもしれない。これからは少ないお金で、どうやって心豊かに暮らしていくか考えなければいけない時代。生ごみをお金にかえて、お金のかからない、人と人が温かく繋がりがち、暮らしやすい地域を作り上げることができないだろうか。生ごみは、住民の自立、自律を促していくように感じる昨今である。

生ごみを燃やすなんて、もったいない。生ごみを出して地場産野菜をゲット、地球温暖化防止にあなたも参加できる!!! すごく、説得力のある言葉だと思われませんか。



生ごみ資源化から得られた液肥を施肥した稲穂です。今までと比べると、穂の立ち具合がしっかりと、収量も5%ほど、増えました。



生ごみクーポン券「FOODO」3枚分の野菜boxです。農家と生ごみ分別参加者との貴重な出会いです。さて、今年は何が入っていたでしょう？液肥米は、もちろん入っています。



自然エネルギー学校

東松山自然エネルギー学校の報告 (阿部 紀人)

今回の自然エネルギー学校は、'地域での地球温暖化防止活動' 推進の一環という位置づけであったため、次のような観点から企画・立案を行ないました。

地域で地球温暖化防止対策を推進するにあたっては、住民や地場産業の担い手の主体的な参加と協力が不可欠。

そのためには温暖化防止のための対策が、地域の自然環境の保全、地場産業の振興、少児高齢化への対応など、身近でより切実な問題の改善につながるという実感と、それを日々の暮らしや仕事の中で継続的に実践していける具体的な仕組みが必要。

具体的には、'ふうど'のこれまでの取り組み事例を参考として、地球温暖化防止につながる地域資源の活用技術や仕組みを紹介すると同時に、それを実際の地域づくりに応用するための方法を一緒に考えていくというワークショップ方式を採りました。(12月、1月、2月に一日づつ、合計3回実施)

30名前後の小規模なセミナーではありましたが、市内を中心に環境問題に関心の高い住民層が集まり、参加者の皆さんからは、中身の濃い講習会であったと概ね積極的な評価を頂けたようです。

今回の自然エネルギー学校をきっかけとして、地球温暖化防止につながる地域づくりが東松山市をはじめとする比企地域、さらには埼玉県全体へと広がっていくことを、'ふうど'スタッフ一同願っています。



《第1回》「地域のバイオマス資源の活用術」<2004年12月19日(日)>

講義: 地域のバイオマス資源の活用

バイオマス資源の活用が地球温暖化対策、さらには自然環境の保全や地場産業の振興につながる仕組みについて。また、小川町で取り組んでいる生ゴミ資源化事業の仕組みや課題点などについても紹介。

ブース形式による展示と説明・・・参加者によるブース自由訪問

「生ごみ資源化事業」と「森林資源活用事業」が2大テーマ。それぞれの要素や技術の違いに応じて、6つの展示ブース( )を設けました。参加者は関心のあるブースを自由に巡り、それぞれの資料や展示品を見ながら、専門に取り組んでいるメンバーから詳しい解説を聴いたり、意見交換を行ないました。

( ) 生ごみ資源化技術(バイオガス)      メタンガスと液肥の保存・利用方法      地域通貨の活用  
木質バイオマスエネルギー利用      間伐材ガラス温室      炭焼きと木炭の多角的利用

2グループに分かれて意見交換会と発表

参加者の質問・意見・要望等に対して、各ブースの説明者や行政担当者がコメントしながら、今後の取り組み

(第2回)「地域通貨～地域の資源と暮らしを結びつける知恵～」<2005年1月23日(日)>

**講義：地域通貨とは？なぜ地域通貨が必要なのでしょう？**

地域通貨に関する全般的な説明を行ない、各地で取り組まれている地域通貨の特徴と課題などを紹介。さらに小川町で実施している地域通貨“FOODO”の仕組みと現状についても解説しました。

**ロールプレイ（現金取引編） & ロールプレイ（地域通貨取引編）**

参加者は、主婦、各種の商店主、農家、林家、銀行などの役割をロールプレイ形式で分担し、現金（模擬）と地域通貨それぞれを使って、購入と販売を体験し、その違いや効果を模擬体験。

**参加者の感想、集計結果の発表、質疑応答**

集計したロールプレイでの売買結果をもとに、それぞれのケースで地域内で循環するお金（＝地域を潤す）と、地域外に出て行くお金（＝地域経済が細る）の違いを具体的な数字で示しました。そのことで地域通貨が

(第3回)「太陽光発電～住民主体の地域づくりの強い味方～」<2005年2月19日(土)>

**講義：太陽電池の基本と省エネプランの作成**

太陽光発電の基本的な仕組み、地域の学校や公園、農業などに利用できる面白さや可能性を中心に紹介。続いて省エネシートを使って、参加者全員が自分の家の消費電力をもとに省エネプランを作成しました。

**太陽光発電システムのデモ運転**

太陽電池を使った水循環ポンプや電飾に使うLEDライトなどのシステムを組み立て、その実機運転を見学。

**3グループに分かれて課題に対する提案づくりと発表**

「防災対策」、「ピオープづくり」、「商店街活性化」の3グループに分かれ、それぞれ太陽光発電を利用する基本設計を行ない、さらには地域づくりをからめたプランを話し合いました。

ただ今、2005年度小川町自然エネルギー学校の募集中！

**今年度のテーマ：農の恵みを地域で分かち合うために**

あなたにとって「農」とはなんでしょう。

日々口にする米やパン、野菜や果物、それに肉。

それから菜の花やれんげの花が咲きほこる田の景色。

夜の闇にこだまするかえるの大合唱。

それはあなたがこの世に生まれ落ちて、成長し、やがて消えていく間、いつもあなたの傍らで、静かにあなたの命と心を支えるもの。

小川町にはそんな「農」があります。

「農」を応援する人々がいます。

今年の小川町自然エネルギー学校のテーマは

「農の恵みを地域で分かち合うために」。

地域産業が連携し、人と人が連携し、農の恵みを地域で分かち合うための場所や方法・仕組みを実践します。

講座名	開催日	募集人員	会費	講師・内容
大豆畑物語	1)種まき:7月6日(予備11日)、 2)土寄せ:7月25日(予備27日) 3)枝豆祭り:10月16日 4)収穫:11月28日(予備30日) 5)豆腐作り:06年2月上旬	20名	2000円/ 回*5回	講師:河村 食べ物の出来る過程を知り暮らしを丁寧に生きる事をデザイン。大豆の種蒔きから豆腐作りまで挑戦。枝豆祭りは家族で参加OK。オプションとして味噌作りも予定中。
柿渋	8月6日	30名	5000円/ 回*1回	講師:横田、フレビン、原口 午前中は柿の実採取し柿渋作り。午後は、柿渋の使い方
太陽電池の使い方	7月18日	20名	5000円/ 回*1回	講師:桜井薫 太陽電池を実際の現場で利用できる技術を身につける 小型太陽電池による本格的な井戸のポンプ設置
地域通貨(予定)	11月23日	50名	5000円/ 回*1回	講師:交渉中 午前中、地域通貨「FOODO」の経緯とそれを使った野菜交換会の見学。午後は講師指導によるそれぞれの地域通貨のデザイン
バイオガス講座	11月以降	50名	未定	講師:桑原 午前中、建設中のバイオガスプラントの見学、午後、バイオガスの基礎を学びます
農業体験講座	未定	未定	未定	講師:金塚 冬場の農業の1日体験

**<小川町までの交通>**

(列車ご利用の場合) 東武東上線「小川駅」(池袋より急行にて1時間15分) または  
JR八高線「小川駅」(立川、八王子方面より1~2時間)

(自動車ご利用の場合) 関越自動車「小川・嵐山インター」より約10分

\* 各講習会の集合場所と時間は参加者に別途お知らせします。

**<小川町の宿泊先>**

希望される方は各自ご予約ください。

宿泊先名	住所	電話番号	駅から徒歩	一泊2食	素泊り
新井屋別館	小川 119 - 2	0493-72-0315	10分	6,500円	3,500円

**<お問合せ・参加申込み> 事務局(高橋)まで**

(事務局は、火、木曜日 10時~16時にいますので、その時間にお問合せ頂けると助かります)

電話 / fax 0493-74-2624 e-mail: [ogawa@fodo.org](mailto:ogawa@fodo.org)

## ふうど仲間のページ

**未来を見つめ、こつこつ良い汗を (霜里農場/金子美登)**

じっと未来を見つめ、ムダ、ムリ、ムラを省いて段取りを立てる。易しいようだが、これができれば百姓は一人前です。そして、コツコツと日々積ねての実践の中から論理を組み立てること。自らの実践の中から論理を組み立て、実践と論理が車の両輪のように成長する百姓こそが理想です。つらいあるいは心地よい農作業の疲れの中から、どんなに大変でも自ら理論を組み立てなかったことが、百姓の一番の欠点だったのではないのでしょうか。

次に欠落していたのは、百姓の語源通り、百をたくみに作る価値観を組み立てられなかったことでしょう。衣・食・住・エネルギーをたくみに自給・循環してこそ、本当の自立につながると確信しています。二十一世紀、百姓が一番面白い仕事です。そして、この視点で見るなら小川町は草・森・水・土・太陽という農的資源、さらには人材にも大変恵まれている里山地帯だと言えるでしょう。

話は変わりますが、二十代の初期に土づくりとは、土壤微生物のエサを住む家を与えてやることだとのヒントを得て、三十年近く実践してきました。今、身体の半分は炭素でできている土壤微生物は有機物をエサや住み家として増殖し、田や畑に充満、本当にうまい米や野菜を提供してくれています。有機農業に転換して一年の畑の野菜とは確実に違います。まさに豊饒なる大地です。

二十一世紀を、テロ・報復戦争・テロという悪循環の中で、地球生命と人類の生存をますます脅かすのではなく、汚れなき山河、大地を守り、期待通りの環境と農業の世紀として、人、もの、皆、いきいきと生き残る価値ある新しい時代を仲良く、コツコツ力を合わせて作り出したいものです。

**畑からエネルギーについて考える (立寄庵/金塚 竜)**

農業をしていると、エネルギーを使用しなければならない場面が多々あります。

直接的には、トラクターや草刈機、稲の刈り取り等に利用するコンバイン、イネや小麦を乾燥する機械等々、機械のエンジンを動かす際に用いられる、油のエネルギー。間接的には、資材や肥料を製造・運搬する際に用いられるエネルギー。

その中で、身近に見られる自然エネルギーの利用方法としては、イネの乾燥を行う「はざがけ」や切干しダイコンやシイタケ等を太陽光での乾燥、水車を利用した製粉、田んぼの水を高い所から低い所に流すのも、自然エネルギーの利用になるのでしょうか。そもそも、自然エネルギーを利用するのは、石油等の限りあるエネルギーに頼らない、持続可能な生産を続けるため、環境を汚さない生産をするための工夫なのではないでしょうか。

有機農業の場合は、化学肥料や農薬を使わないので、それらを製造・運搬するエネルギーを使わないで済みます。(もっとも、その代わりに多くの労力や地域内をウロウロする程度のエネルギーは使いますが)

また、「間伐材を利用したガラス温室」を利用すれば、ビニールハウスに用いられるアルミニウムやビニール等の遠い土地から材料を運んできて作るような資材を使わずに済みます。アルミの支柱は、キュウリやインゲン等の栽培にも用いられていますが、竹を使って栽培すれば、やはりアルミニウムの製造に関わる大きなエネルギーを使わないで済みます。ビニールは寒い時期の栽培に使う「ビニールトンネル」、雑草の抑制や地温の上昇に利用する「ビニールマルチ」等々、たくさん利用されています。

ます。

他にも沢山の資材が利用されています。苗を作るポットやトンネル等を押さえておく小さな道具など、農業の資材カタログを見ていると、その資材の種類の多さに驚かされます。

安定した農業経営のために大規模に効率的な農業生産を目指していくと、こうした機械や資材を利用しなければならないようになってしまいます。だけれども、身近で使える、もの、人、エネルギーを使った農業生産を追い求めてみると、案外、お金以外の豊かさがいつのまにか、勝手について来たりするものなのかな、なんて感じてしまいます。たとえば、ビニールマルチの代わりに、竹のチップや間伐材の木の皮を使ってみると、竹細工屋さんや森林組合の人と仲良くなれます。田植えや稲刈りを大勢の人に頼んで一緒に作業していると、みんなで楽しい時間を過ごせます。

便利なエネルギーや資材を使わないで農業をしていこうとすると、現代社会が投げ捨ててきた豊かさをいっぱい得られるのになあ、なんてことを思わずにはられません。

もったいない、もったいない...

### ケンタの思い（高校生/岸岡 健太）

ふうど最年少・高校2年生・16歳の岸岡健太です。

私は小さい頃より小川町に住んでいます。住民ではありませんがずっと小川で育ち、小川の山・川で遊んできました。私が小川町で特に気に入っているのは、堂平山・笹山・笠山の三山が並ぶあの景色です。あの山並みを私は小学校時代毎日あきずに眺めていました。なので、小川町には強い愛着を持っています。

小さい頃、私は「こんな自然の中で仕事がしたい＝農業だ！」と思い、ずっといつかは農業をやるぞと思っていました。中学より東京へ通う事になったので、しばらく農業からは遠のいていましたが、たまたまインターネット上で中学3年の時、炭人の安倍さんやつばさ・游の高橋さんに知り合った縁で、霜里農場で研修させて頂ける事になりました。それ以来、週末のみですが霜里農場で研修しています。また、その後NPO ふうどにも入会させて頂きました。

なんで私が農業を目指すのかその理由を言えと言われたら、

- 大変ではあるけれどこれ以上面白い仕事は思いつかないから。
- 自分で自分の物・食べ物を作れる(全ては無理だけど)ってすごくカッコいい、そして贅沢だと思ったから。
- 自分で最初から終わりまですべて関われ、そして仕事の成果が直に自分に帰ってくる仕事だから。
- 大好きな山を毎日いつでも見てられるから。
- 自ら環境保全に関われる仕事だから。
- 

いま「クリエイティブな仕事を見つけよう」とか言いますが、農業ほどクリエイティブな仕事はほかに無いと思います。将来は大学卒業後、農業をやるつもりです。場所は、まだ決めていません。長野や、もしくはこの小川町。山の近い所に就農したいと思っています。しかし、まだ、はっきりとは言えません。でも、もし万が一農業以外の仕事に就く事があったとしても、ぜったい何らかの形(自給自足)などで農業には関わるだろうと思います。これからも、未永くよろしく願います。

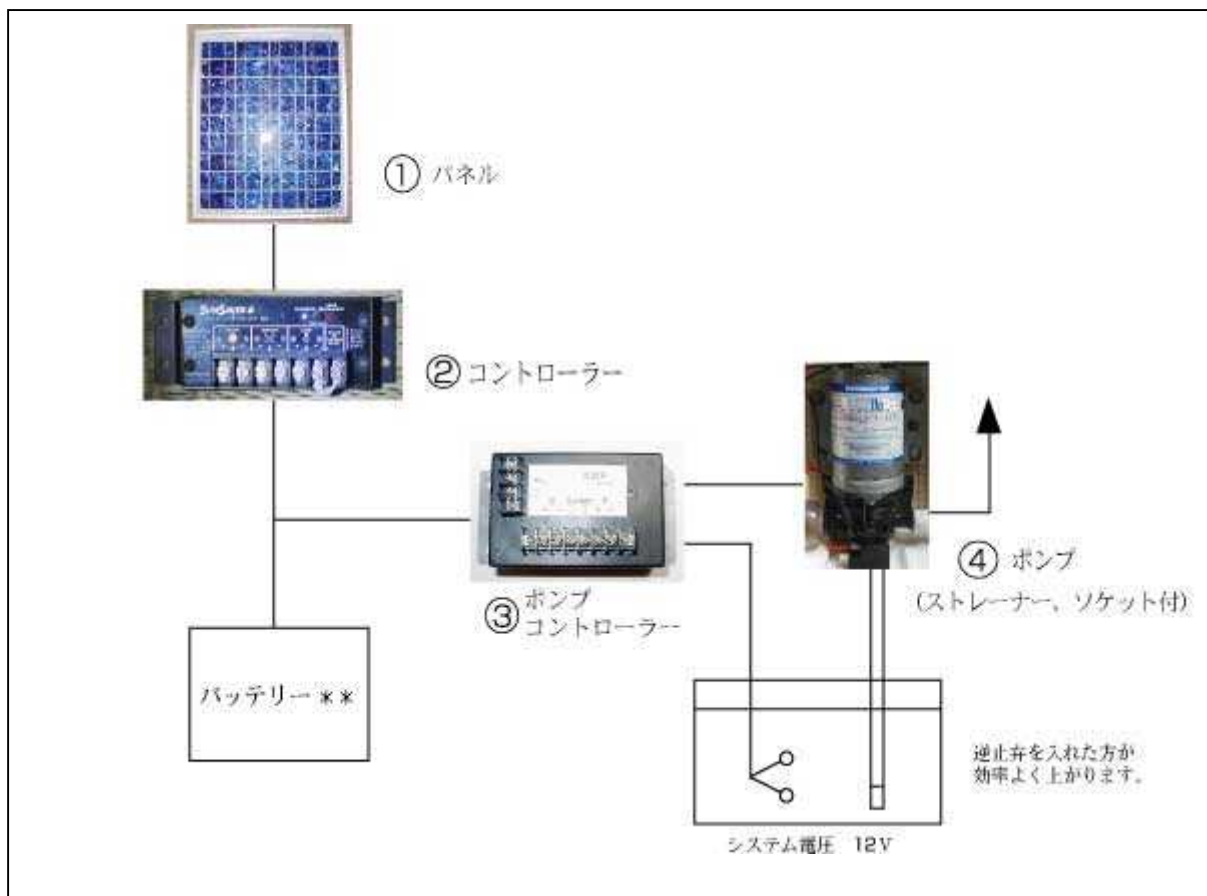
**自分流、太陽光発電のすすめ (エルガ・桜井 薫)**

太陽光発電というと、屋根一杯にのせた大きなシステムを思い浮かべる方も多いと思います。何百万円もするんだよな、とため息をつく方もいるかも知れません。しかし、小川のお百姓さん達は、もう5年も前から、自分で組立てた小さな太陽電池で、井戸水の汲み上げ用ポンプの電源にしています。電柵に使っています。夏なので、一寸、このポンプシステムの話をしてみましょう。構成はいたって簡単です。

下図のように、太陽電池の他に、バッテリーと、そのバッテリーを管理するコントローラ、それと直流ポンプからできています。これは結構色々な使い方ができるんですよ。私は、雨水をためて、その水を簡易水洗トイレに使っています。雨が降れば降ったで楽しいし、お日さま出れば、これ又嬉しい。夏の暑い時等は、いくつも穴を開けたパイプを屋根に這わせておき、そこから水を流します。樋を通して、また雨水タンクに戻ります。スプリンクラー散水にだって使えます。タイマーと組み合わせれば、畑への定期的な散水装置になってしまいます。実際、ハウスに使っている所もあります。また、大きな雨水タンクと組み合わせると、池の循環に使っている所もあります。単独浄化槽・再利用の雨水タンクとこのポンプシステムを組み合わせるお宅も出て来ました。(小川町では、補助金が出ます。)

システム全体で自分でやれば、10万円はかかりません。最初に書いたように、太陽電池ですら、手づくりできてしまうんですよ。(自然エネルギー学校、あるいはソーラーネット [http://solar\\_net.tripod.co.jp/](http://solar_net.tripod.co.jp/))

ほんの少し前まで、斧は家庭のエネルギーをまかなう手軽な道具でした。あなたも、気軽に太陽電池を使いこなして、自分だけの道具にしてみませんか?



事務局よりのお知らせ

第3回NPOふうど総会が開かれます。奮ってご参加下さい。

時：5月28日(土)13時30分より

所：小川町民会館リリック 会議室

当日は、午前中、生ごみ資源化プラントの見学、総会終了後、懇親会(会費制)を  
予定しております。参加申込みは事務局まで。締め切り：5月25日24時まで

会員募集のお知らせ

NPOふうどでは、一緒に活動していただける会員を募集しています。

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| (1) 正会員 個人会員          | 年会費 2,000円1口以上  |
| (2) 協力会員 a. 個人会員      | 年会費 2,000円1口以上  |
| b. 市民活動団体・特定非営利活動法人会員 | 年会費 10,000円1口以上 |
| c. 一般団体会員             | 年会費 20,000円1口以上 |

会費納入は下記口座へお願い致します。

郵便局 口座番号 00120 3 545491 口座名義：NPOふうど

今年度の会費納入についてお願い

総会当日の集金でもOKです。ご欠席の方は下記口座あて、お振込の方、よろしくお願い致します。

郵便局 口座番号 00120 3 545491 口座名義：NPOふうど

### 定例会のご案内

毎月第1水曜日 19時30分より事務局にて定例会・理事会を開催しております。

会員の方なら、参加は自由です。興味、関心のある方のオブザーバー参加も受け付けて  
おります。事務局まで、ご連絡下さい。

NPOふうどはAPバンクより融資を受けました。それで、APバンクのホームページにNPOふうど  
の活動が紹介され、内容を随時更新していますので、ご覧下さい。

<http://www.apbank.jp/index2.html>

### <編集後記>

・最近ば「ふうど」の活動の広がりとともに、各地の環境団体、NPO・NGO、自治体や研究機関などと連携して取り  
組む事業も増えてきました。今回はそのダイナミックな展開を感じていただくことができれば、と考えて編集に  
あたりました。しかし、限られた紙面では、やはり十分にお伝えすることはできません。一番良いのは、自ら具  
体的な活動の企画・運営に携わることだと思います。みなさんの積極的な参加をお待ちしています！（阿部）

・やっと、ふうど通信2号を出すことができほっと安心しています。

昨年は、自然エネルギー学校がありませんでしたので、今年は、絶対、開催したいと張り切っております。講座  
内容も、新しいプログラムが、新しく入った会員の方が提案されました。若い人たちが、関心を寄せて下さっ  
ているので、とても明るい気持ちになります。また、たくさんの女性の方や子ども達にも、関心を持って貰いたく  
て、企画に頭をひねっています。是非、みなさんから、「こういう面白いのでは、どう？」と提案してみ  
て下さい。そして、企画してみてください。新しい出会いが生まれて、そして新しい希望の種を育てて見て下さい。

(高橋)